

兵庫県版レッドデータブックの蛾

(兵庫県蝶類分布資料・5)

高島 昭

きべりはむし第23巻第2号、第24巻第1号でも概略の紹介(近藤・1995,1996)があったように、兵庫県版レッドデータブックが発表され、学術上貴重と評価できる自然(動・植物をはじめ植物群落、地形、地質、自然景観等を含む)が選定された。

このレッドデータブックを今後どのような形で活用するのかは大きな課題であるとともに、選定されたものの貴重性が絶対的なものであるかどうかは大いに議論が分かれるところであろう。すなわち、①すべての分野にわたって同じ基準で判定されているか、②選定されたものが本当に各ランクに該当するものかどうか(…たとえばCランクの種が本当に兵庫県内において存続基盤が脆弱な種であるかどうか)、③選定されなかったものの中に、実は大変貴重なものがありはしないかなどである。

①に関しては、各分野で選定担当者が異なるので、若干の個人的見解の相違が反映されるのは当然であろうし、②、③に関しては、選定するためのベースになる分布調査データの充実度に大きく影響されていると思われる。つまり昆虫に限ってみれば比較的調査が行き届き全県的にデータがあるチョウ、トンボ、セミ、コウチュウの一部などについては、それなりにほぼ網羅されているのではないかと思うが、それ以外の分野については分布調査そのものが十分に行われていない段階での選定であり、現在ある断片的なデータをもとに判断せざるを得ない。だから、選定作業は大変困難であったと思うし、本当の意味での貴重種のリストになったかどうかは疑問符がつくのも致し方ないと思う。トビケラやカゲロウなどの仲間はまだに県下初記録が続出し、分類上の位置すら決まっていないうものも多いと聞くし、ハチ、ハエなども県下の分布調査は専ら一部の学者達の領域に近

い状態である。

さて、ガの仲間ではBランクに3種、Cランクに17種選定されたが、そのうち人気の高いカトカラの選定が7種と目立つ。それほどカトカラが他の大多数の種に比べ珍しい種が多いのかというと、そうでもないと思うのであるが、他の多くの種のデータがあまりにも少なく、判断材料たり得なかったことの裏返しであるといえよう。また、指標としてはある程度一般的な(よく知られている、またはよく目につく)種の方が適しているという判断からかもしれない。

ことほど左様にガの分布調査は、人気種を除いてはほとんど学者やごく一部の愛好家によって断片的に行われているだけで、種類数は結構いるが、それでは兵庫県に何種類の蛾がいるのか、どこにどんな種が分布しているのかということほとんど何もわかっていないのが実状である。同じ鱗翅目のチョウではかなり解明されており、比較するとその落差は大きい。そんなことから筆者は、前々から兵庫県のガについてデータの集積の必要性を痛感しており、過去に発表された文献を集め、収集できた記録をデータベース化することを試みている。さいわい、ある程度まとまったので、今回兵庫県版レッドデータブックで発表されたガについて過去のデータを眺めてみたいと思う。

採集例は原則として採集地の行政順に掲載した。

採集地名はできるだけ原記載のとおりとしたが、行政区分が変わっているものや、市町名の記載が無い場合でも文脈の流れ等から特定できるものについては若干補足(例えば「摩耶山」を「神戸市摩耶山」、「扇ノ山」を「温泉町扇ノ山」など)して原記載と変更している。また、「氷ノ山」、「(能勢)妙見山」のように府県境に位置する山等の記録については、鳥取県、大阪府という記述がない場

合は掲載した。

データとして不完全(採集地名や採集月日が報告の中に記述されていないもの……自然環境調査報告書などにその例が多い)なものも掲載した。

なお、データベースの出所は筆者の貧弱な文献にある。過去の発表されたデータのすべてを収集することは大変困難(古い文献や一般には手に入らないものも多いと思われる)であり、かなりの遺漏があると思われるがお許し頂きたい。また、データベースをより完全なものにしたいので、データの漏れ落ちがあれば御教示いただきたい。とくに見ていただければわかるように東播地方からの記録の発表がほとんどされておらず、「分布の空白地帯」になってしまっている。どんな普通種でも分布していないという極めて不自然なことになるので、調査の実施とデータの発表をお願いしたい。

Bランクに分類される種

Bランク：日本版レッドデータブックの危急種に相当。兵庫県内において絶滅の危機が増大している種等、極力生息環境の保全が必要な種。

Schistomitra funeralis Butler

フジキオビ

過去はツバメガ科に所属していたが、最近の研究からアゲハモドキガ科に移管されている。昼飛性で山地性である。関東北部から中部地方、近畿から中国の山地、四国山地に分布し、ナツツバキを食樹としているが、現在のところ県下では氷ノ山での1例のみの記録しかない。蛾の採集はどうしても夜間採集が中心となり、灯火への飛来をひたすら待つだけという軟弱な採集方法に偏りがちで、この種に限らず昼飛性の種の採集記録は少ない傾向にある。むしろチョウ目的の採集のついでにネットインされている可能性が多いと思われる。この種を採集された経験のあるチョウ屋さんはぜひ発表してほしい。

<採集例>

氷ノ山 -.-.- 遠山ほか 6)

Rhodinia jankowskii (Oberthür)

クロウスタビガ

山地性の晩秋の蛾。キハダを食樹とする。近県では福井県、大阪府(箕面)、岡山県北部、広島県、島根県などで採集例があるが、全国的に産地は限られその数は少ないという。平地に多いウスタビガと比較すると全体に黒い鱗粉に被われ翅型もスマートで引き締まった感じがする。中室の透明紋は三角形。

これまでに発表された記録は波賀町引原の1例であるが、同地ではたびたび採集されていると聞く。成虫の発生時期が晩秋であることが記録が少ない一因と思われ、中央山地一帯を中心に探せばまだまだ産地はみつかると思う。

<採集例>

波賀町引原 10.X.1988 1♂ 高島昭 12)

Catocala mirifica Butler

カバフキシタバ

全国的にかなり局地的な分布をし、栃木県大平町、伊豆大室山、木曾谷、福井県西部、近畿内陸部、岡山県、島根県浜田市、香川県で採集記録がある。また、県下の分布を見ると、案外深い山地よりも里山のような環境の所で得られている。これは食樹がカマツカであることからもうかがえる。

都市近郊地域の雑木林に注目すればさらに記録地は増えると思われる。

<採集例>

神戸市摩耶山 16.VIII.1984 1♀ 岡村八郎 5)

神戸市摩耶山 18.VIII.1984 1♀ 岡村八郎 5)

神戸市摩耶山 9.VIII.1985 1♀ 岡村八郎 5)

芦屋市山芦屋町 13.VII.1985 1ex. 西隆広 43)

西宮市角石町 27.VII.1982 1ex. 佐藤学 3)

猪名川町上阿古谷 19.VIII.1983 1♂ 夏秋他37)

姫路市西庄 12.VII.1979 1♀ 前田清隆 2)

三日月町下本郷 24.VII.1984 1♂ 川副昭人7)

氷上町黒井 21.VII.1955 1♂ 竜見明 60)

Cランクに分類される種

Cランク：日本産レッドデータブックの希少種に相当。特殊な環境に生息する種、個体数の極めて少ない種、分布の局限している種等、兵庫県内において存続基盤が脆弱な種。

Rhodonecurea sugutanii Matsumura

スギタニマドガ

真珠光沢のある白色に灰色の小さな斑紋を配した美しい種類。東海以西の温暖な地域に棲息する。

産地は局地的であり多産しないようである。

県内では、淡路で古くから知られているほか、南部で採集されている。

<採集例>

- 南淡町阿万上町 2.VII.1961 - 藤平明 48)
 北淡町常隆寺山 7.VII.1972 2♂ 登日邦明 76)
 神戸市長田区花山町2丁目
 4.VII.1982 1♀ 松本健嗣 55)
 姫路市太市 -. -. - 丸谷ほか 44)
 川西市黒川 13.VII.1996 1♂ 高島昭 未発表

Aglia japonica Leech

エソヨツメ

北海道から九州にかけての本土域に分布し、早春に1回発生する。カバノキ科、ハンノキ科、ブナ科等につく落葉広葉樹林の蛾で、県下では低山地域に広く分布するものと思われる。何分にも早春1回という発生なので、お目にかかりにくいということが記録の少ない要因であろう。また、この蛾は日没直後から活動を始めることで知られている。

<採集例>

- 神戸市摩耶山 14.IV.1963 1♂ 田中蕃 20)
 神戸市摩耶山 -. -. - 岡村八郎 5)
 神戸市妙法寺町 3.V.1965 1♂ - 54)
 宝塚市西谷 10.IV.1977 - 東正雄 42)
 宝塚市西谷西部 11.IV.1987 1♂ 東正雄 16)
 宝塚市西谷西部 23.IV.1988 1♂ 東正雄 16)
 宝塚市西谷西部 14.IV.1990 3♂ 東正雄 16)

- 宝塚市西谷西部 13.IV.1991 1♂ 東正雄 16)
 三日月町下本郷 -.IV.- 川副昭人 7)
 相生市瓜生 18.IV.1995 1♂ 高島昭 14)
 上郡町行頭 25.IV.1996 1♂ 高島昭 未発表
 温泉町扇ノ山 2.VI.1984 1♂1♀ 谷田昌也21)
 柏原町柏原 7.IV.1955 - 山本義丸 60)

Langia zenzeroides Rothschild & Jordan

オオシモフリズメ

およそ富山・長野県下伊那地方・愛知県を結ぶ地域以西の本州、四国、九州北部、対馬に分布する。日本では最大級のズメガである。これも早春1回の発生で、そのことが珍品化しているものと思われる。淡路地区では比較的よくデータが集積されている。

ウメ、モモ、ソメイヨシノ等を食樹としており、山地帯よりもむしろ典型的な里の蛾といえる。管理放棄されたようなウメ園でもあれば、ときどき大発生することがあるようだ。春、桜が咲く頃の農村地帯は要注目である。人里という人工的な環境を生活圏としている点では、種の存続基盤としては不安定といえる。

<採集例>

- 西宮市上葭原町 6.IV.1951 1♂1♀ 東正雄 16)
 宝塚市 -.IV.1968 1♂ 遠山ほか 22)
 宝塚市西谷西部 13.IV.1991 2♀ 東正雄 16)
 上郡町行頭 7.IV.1995 1♂ 高島昭 未発表
 柏原町柏原 -.IV.1936 - 山本義丸 58)
 柏原町柏原 1.IV.1937 - 山本義丸 58)
 柏原町柏原 15.IV.1951 - 山本義丸 58)
 柏原町柏原 11.IV.1953 - 山本義丸 58)
 氷上郡生郷 8.IV.1953 - 山本義丸 58)
 洲本市下加茂 3.IV.1967 - 登日邦明 25)
 洲本市鮎屋 10.IV.1969 - 坂口操 9)
 洲本市中津川 7.IV.1972 1♂ 登日邦明 26)
 洲本市安乎町 10.IV.1984 - 堀田久 51)
 洲本市由良 9.IV.1986 - 堀田久 51)
 津名町大町畑 3.IV.1972 2♂ 登日邦明 26)

南淡町阿万上町 10.IV.1983 - 藤平明 48)
南淡町阿万上町 30.III.1984 - 藤平明 48)

Ilema nachiensis (Marumo)

ナチキシタドクガ

暖帯性の種で、関東地方以南に分布している。アラカシ、オオバヤシャブシなどが食樹として記録されており、その点からは普遍的に分布しているいいのだが、実際には局地性の強い少ない種のようなのである。

<採集例>

神戸市摩耶山 16.VII.1963 1♀ 田中蕃 21)
神戸市山の街 6.VII.1973 1♀ 松本健嗣 52)
宝塚市南口2丁目 5.X.1984 - 新家勝 41)
妙見山 18.VII.1984 1♀ 夏秋他 38)
三日月町下本郷 -.VII.1983 1♀ 川副昭人7)
出石町内 28.VII.1975 - 大林誠 15)
柏原町柏原 20.VII.1949 - 山本義丸 60)
南淡町阿万上町 16.VII.1979 - 藤平明 48)
北淡町常陸寺山 5.VII.1972 2♀ 登日邦明 28)
南淡町阿万上町 14.VII.1972 1♀ 登日邦明28)

Orygia triangularis Nomura

ヤクシマドクガ

これも前種と同様、暖帯性の蛾で東海地方以西の太平洋岸に分布しており、兵庫県は分布北限に近いと思われる。食樹や幼生期は不詳である。県下の記録は、古くに三日月町、春日町といった内陸部で2例記録されているに過ぎず、飛来なのか土着なのかわからない。瀬戸内海沿岸や淡路での発見が期待される。

<採集例>

三日月町下本郷 -.VI.1959 1♂ 川副昭人7)
春日町妙高山 28.VIII.1954 - 山本義丸 60)

Agrisius fuliginosus Moore

ゴマフオオソバ

本州から九州にかけて分布するが、局地的な分布をするようである。しかし、発生地での個体数

は必ずしも少ないものではないようだ。三日月町や南淡町では同一地で何回か反復して採集されているようである。

ヒトリガ科のコケガやホソバの類は、極めて地味な存在で、小型種が多く♀の同定が困難な種もあり、飛来していてもあまり採集されないことが多いのではないと思われる。本種はまず間違えることはないと思うが、今後注目していただきたい種である。

<採集例>

宝塚市武庫川町 30.VI.1981 - 新家勝 40)
猪名川町上阿古谷 25.VIII.1981 14♀ 夏秋他38)
猪名川町上阿古谷 20.VII.1982 1♀ 夏秋他38)
三日月町下本郷 -.VI.- - 川副昭人 7)
三日月町下本郷 -.VII.1983 - 川副昭人 7)
三日月町下本郷 -.IX.- - 川副昭人 7)
柏原町柏原 2.VII.1940 2exs. 山本義丸 60)
南淡町阿万上町 14.VII.1972 2♀ 登日邦明27)
南淡町阿万上町 18.V.1973 - 藤平明 46)
南淡町阿万上町 1.VIII.1973 - 藤平明 46)

Nyctemera adversata (Schaller)

モンシロモドキ

一見モンシロチョウに似ているのでこの名がある。昼飛性の蛾であるが灯火にも飛来する。飛ぶときは比較的高所を飛ぶ。

南方系の蛾である。台風などで運ばれて偶産蛾として得られることもあるようで、どこまで土着しているかは定かでないが、伊豆半島以西の太平洋岸では採集例が多い。兵庫県でも1950年に神戸市須磨区で発見・採集されたのが最初で、それ以降目撃、採集例が多い(例えば神戸市山の街では、1972年、1977年にも採集例の報告がある)ことから、クロコノマチョウやナガサキアゲハがそうであったと同じく、分布域を北へ広げつつあり、今まさに兵庫県に進出し始めたところであるのかもしれない。現状では神戸市と淡路地区に限られているが、瀬戸内海沿岸部は注意する必要があるようだ。

<採集例>

- 神戸市須磨 - . - .1950 - - 8)
 神戸市山の街 15.VII.1971 1♀ 松本健嗣 52)
 神戸市山の街 1.VIII.1972 目 松本健嗣 52)
 神戸市山の街 15.IX.1977 1♀ 松本健嗣 52)
 洲本市上灘畑田 20.X.1974 1♂ 登日邦明 29)
 洲本市宇山 10.X.1980 lex. 林俊雅 31)
 南淡町灘 12.VIII.1986 1♀ 登日邦明 33)
 南淡町灘 12.X.1967 - 藤平明 46)
 南淡町阿万 6.V.1973 - 藤平明 46)
 南淡町阿万上町 14.V.1973 - 藤平明 48)

Brithys crini (Fabricius)

ハマオモトヨトウ

ハマオモトを食草とし、房総半島以西の太平洋岸を九州南部、種子島、屋久島まで分布している。

県下では1978年夏に津名郡津名町佐野でハマオモトから採集された幼虫を飼育して本種の1♂が羽化したという記録が唯一のものである。なお、採集者の藤富正明氏はその前年にも津名郡東浦町飯屋の海岸でハマオモトに本種の幼虫が多数ついているのを確認したという。

食草の関係から県下では極めて局地的な分布をすすると思われる。

<採集例>

- 津名町佐野 24.VIII.1978 1♂ (飼育)
 藤富正明 30)

Oruza yoshinoensis (Wileman)

ヨシノクルマコヤガ

別名ヨシノシマコヤガ。日本産蛾類大図鑑(講談社)によると、本種は千葉県の消澄山、紀伊半島、四国、九州、対馬、屋久島に分布するという。

実は、本種のように本州から九州の太平洋岸沿いを北限とする種は多く、そのうちのかんりの種は兵庫県南部の温暖な地域でも採集されている。

本種はこれまで淡路地域で2例の記録があり、いわば兵庫県を分布北限とする南方系種の代表として選定されたもののように思われる。

<採集例>

- 洲本市中津川 4.V.1972 1♀ 登日邦明 26)
 南淡町阿万上町 12.V.1976 - 藤平明 48)

Catocala fraxini (Linnaeus)

ムラサキシタバ

ヤマナラシを食樹とする寒地性のカトカラで、後翅に紫色の帯を持つ唯一の種である。日本のカトカラでは最大級で優雅さと美しさでマニアの垂涎的となっている。

信州あたりの山地では8月頃によく見られ、決して珍しいものではないが、西南暖地では局地的になり、中国山地(広島県北部が最西端とのこと)と徳島県西祖谷村に孤立的に産地が知られる。兵庫県での発生時期は他のカトカラが出揃った後、9月後半から10月にずれ込むため、あまり目に触れる機会がないのではないかと思う。

そのせいか、県下では波賀町引原ダム、戸倉峠、氷ノ山の3カ所に限られているが、反面引原ダムや戸倉では採集報告例は多い。とくに波賀町引原のポイントでは、少々気象条件が悪くても行けば見られる可能性は高く、個体数はさほど少ないものではないらしい。食樹のある山地帯を探せばもっと分布地は確認できるものと思われる。

<採集例>

- 波賀町引原 4.X.1981 1♂ 相坂耕作 1)
 波賀町引原 16.X.1981 1♀ 黒田収 1)
 波賀町引原 20.X.1981 1♂ 相坂耕作 1)
 波賀町引原 21.X.1981 1♀ 松尾隆人 1)
 波賀町引原 7.X.1988 1♂ 高島昭 10)
 波賀町戸倉峠 3.X.1981 1♀ 相坂耕作 1)
 波賀町戸倉峠 4.X.1981 1♂ 相坂耕作 1)
 波賀町戸倉峠 18.X.1981 1♂ 黒田収 1)
 関宮町氷ノ山 - . - .1955 1♂ 山本義丸 59)

Catocala actaea Felder

コシロシタバ

クヌギを食樹とする典型的な落葉2次林の蛾。したがって平地から低山地の雑木林が主たる分布

域となり、良い環境が残されているところではときに多産するという。反面、宅地開発などで古いクヌギ林が次々と姿を消しており、生息環境が失われる危険性は高い。

今のところ、神戸市と北摂地域からしか記録がないが、中国地方から九州北部にかけても分布するので、東・西播などでウラナミアカシジミを産する雑木林を探せば産地が発見されるだろう。

<採集例>

- 神戸市摩耶山 -.-.- 田中蕃 20)
 妙見山 4.VIII.1952 lex. 堀田久 24)
 猪名川町上阿古谷 12.VIII.1982 1♀ 夏秋他38)
 猪名川町上阿古谷 1.IX.1982 1♀ 夏秋他 38)

Catocala streckeri Staudinger

アサマキシタバ

北海道から本州の内陸部に広く分布するカトカラで、最西端の記録は岡山県下にある。

ミズナラ、コナラのほか近畿地方ではアラカシにもつくことが知られており、県下では南部の低山地帯で点々と得られている。2次林に優勢な蛾といえる。

カトカラの中で最も早く羽化し、早いものは5月下旬から発生し6月一杯で姿を消すので、発見されにくいのではないかと。発生地はもっと多くみつからと思うし、産地での個体数は決して少ない。

<採集例>

- 神戸市原野 30.V.1964 - 松本健嗣 55)
 神戸市藍那 28.V.1983 2♂ 松本健嗣 55)
 猪名川町上阿古谷 10.VI.1983 2♂2♀
 夏秋他 37)
 猪名川町下阿古谷 9.VI.1984 1♂1♀
 竹中進 20)
 上郡町行頭 2.VI.1995 1♂ 高島昭 未発表
 三日月町下本郷 5.VI.1984 - 川副昭人 7)

Catocala connexa Butler

ヨシノキシタバ

ブナを食樹とするため、県下ではブナの自生する山地帯にのみ分布する。同じくブナ帯に固有なゴマシオキシタバに比べると個体数は少ないようである。

扇ノ山、蘇武岳、藤無山など北部から中央山地を調査すれば、新しい産地が見つかると思われる。

<採集例>

- 波賀町坂の谷 26.VIII.1988 1♀ 高島昭 11)
 関宮町氷ノ山 16.VIII.1955 1♂ 山本義丸 59)

Catocala hyperconnexa Sugi

アミメキシタバ

常緑カシ帯上部を主たる生息域とするカトカラで、食樹としてはクヌギ、アラカシが確認されている。同じ常緑カシ帯の蛾であるウスイロキシタバと比較すると、ややそれより上部で得られる傾向が強いというが、県下では宝塚市の例のように市街地の灯火に飛来することもある。産出はやや局地的で、どこでも得られるものではないようだ。

<採集例>

- 神戸市摩耶山 20.VII.1963 1♀ 田中蕃 21)
 神戸市摩耶山 -.-.- 岡村八郎 5)
 宝塚市南口2丁目 15.IX.1984 - 新家勝 41)
 宝塚市武庫川町 20.IX.1984 - 新家勝 41)
 猪名川町上阿古谷 12.VIII.1982 1♀ 夏秋他38)
 三日月町下本郷 -.VII.1983 - 川副昭人 7)
 三日月町下本郷 -.VII.1984 - 川副昭人 7)
 三日月町下本郷 -.IX.- - 川副昭人 7)
 三日月町下本郷 -.IX.1984 - 川副昭人 7)
 南淡町阿万上町 7.VIII.1962 - 藤平明 47)

Catocala kuangtungensis Mell

クロシオキシタバ

後翅が黄色のカトカラの中では、キシタバと並んで最も大型な種。ウバメガシを食樹とし、生息域はこの植物の分布に左右され、ウバメガシの自生地では多産する。全国的には、伊豆半島、知多半島、紀伊半島、瀬戸内海沿岸部と島嶼、四国南部、東九州、屋久島などに分布し、沿岸地域に多

いが植生によっては内陸部でも得られている。

県下では、ウバメガシの自生地が少ないので局地的になるが、淡路地域では記録が多い。尼崎市のような市街地や猪名川町のようなウバメガシが分布しない内陸部でも得られている。成虫の移動によるものか、植栽されたウバメガシに発生した例と思われるが興味深い。

<採集例>

尼崎市塚口 5.VII.1983 1♀ 夏秋優 39)
 猪名川町上阿古谷 19.VII.1983 1♂ 夏秋他37)
 家島町男鹿島 23.VII.1967 - 松本健嗣 53)
 家島町男鹿島 24.VII.1981 2exs. 松本健嗣53)
 赤穂市福浦 5.VII.1995 1♂ 高島昭 13)
 洲本市先山 12.VII.1967 2exs. 堀田久 49)
 洲本市中津川 11.VII.1972 4♀ 登日邦明 27)
 洲本市中津川 15.VII.1972 1♂ 登日邦明 27)
 洲本市安乎 11.VII.1976 1ex. 堀田久 50)
 洲本市安乎 12.IX.1976 1ex. 堀田久 50)
 北淡町常陸寺山 31.VII.1967 - 登日邦明 23)
 北淡町常陸寺山 5.VII.1972 2♂1♀
 登日邦明 27)
 津名町大町畑 31.VII.1972 1♂ 登日邦明 27)

Melapia japonica (Ogata)

クロスジユミモンクチバ

淡路島が分布の北限となっており、室戸岬、足摺岬、九州以南でとれている南方系の種。

幼生期は不詳である。他の近縁種と比較すると移動性は少ないようであるが、移動性は土着か非土着かは不明である。記録の集積が期待される。

今のところ、淡路島内にしか記録がない。

<採集例>

洲本市中津川 2.VII.1972 1♂ 登日邦明 27)
 洲本市中津川 3.VII.1972 1♂ 登日邦明 27)
 南淡町阿万上町 - .IX.1960 - 藤平明 47)
 南淡町阿万上町 17.VI.1961 - 藤平明 47)

Maikona jezoensis Matsumura

マイコトラガ

早春に1回だけ出現する。トラガの仲間は昼飛行の種も多いが、本種は夜行性である。国内の本種の分布は変わっていて、北海道中南部以南に分布し、東北地方から近畿地方の主に日本海側と内陸部に山地が点在し、徳島県、対馬、伊豆半島、伊豆大島にも産する。しかし、兵庫県では日本海側、内陸部というよりも淡路、瀬戸内海沿岸に分布の主力があるように思える。その延長が徳島での分布ということのようである。食草はありふれたノブドウであり、この種の分布域の要因を決める要素は何かと考えてしまう。

早春1回という発生で、発生時期も短いため見逃されがちと思う。淡路ではかなり高密度で採集されており、調査が進めばかなり普遍的にみつかるとは思えないだろうか。

<採集例>

神戸市藍那 29.IV.1986 1♂ 松本健嗣 56)
 神戸市奥須磨公園 -.III.1992 -
 熊代直生 57)
 神戸市諏訪山公園 20.III.1994 1♂
 山口福男 57)
 相生市瓜生 18.IV.1996 1♀ 高島昭 14)
 洲本市中津川 7.IV.1972 1♀ 登日邦明 26)
 洲本市中川原町 19.III.1974 3♂ 藤富正昭32)
 洲本市中河原町 29.III.1974 1♀ 藤富正昭32)
 洲本市宇山 27.III.1981 1♂ 林俊雅 32)
 洲本市宇山 30.III.1981 1♀ 林俊雅 32)
 洲本市宇山 17.III.1982 1♂ 林俊雅 32)
 洲本市三熊山 20.III.1983 1♂ 林俊雅 32)
 洲本市宇山 28.III.1983 1♀ 林俊雅 32)
 三原町八木 26.III.1982 1♂ 藤富正昭 32)
 北淡町常陸寺山 16.IV.1988 1♀ 登日邦明34)
 北淡町浅野 8.III.1989 1♀ 登日邦明 35)
 南淡町阿万上町 25.III.1985 - 藤平明 48)
 南淡町阿万上町 26.III.1985 - 藤平明 48)

以上、レッドデータブックに掲載された蛾20種のこれまでの記録を紹介した。各種毎に簡単に付

した解説でも述べたが、早春や晩秋に1回だけひっそりと出現するものが多いように思える。この時期には一般的にはあまり採集は行われなし、これらの種を目的に採集を行っても気象条件が合わないとなかなか飛来せず採集できない場合が多い。同じように早春や晩秋、または冬季に1回だけ出現する種は案外多く(例えばフシキキシタバやキリガ類は有名)、記録の集積も同様に少ないのであるが、そのなかで上記の種が選ばれたのは人気や注目度の差であろう。

今回選ばれなかった種の中にも、大変な珍種が多く残されている(例えばフシキキシタバは1950年に氷上郡で発見されて以来記録がない。1957年に大屋町横行で発見されたネジロシマケンモンは全国的にも採集例が少なく、高砂市で発見されたイノモトソウノメイガに至ってはその1例しか記録がない)ように思うし、分布上興味深い種も多い。最近になって初めて兵庫県で記録された種もいくつかある。しかし、最初に述べたように調査を重ね、データを集積して初めて貴重種か普通種かの判断ができるのであって、その意味では人気や注目度の高い種が選定されたことは妥当な処置であったといえる。

また、レッドデータブックでは貴重種としての評価は得られなかったが、局地的な分布をする(と思われる)種や県下での記録が少ない種についても、今後順次記録を紹介したいと考えている。そのことで、同好の方々の採集調査の参考になり、また、データ発表の起爆剤になればと考えている。

いずれにしても環境保全のパロメーターとしてレッドデータブックを活用する方策が講じられることを希望する。

<参考文献>

- 1) 相坂耕作(1981) 宍粟郡下でムラサキシタバを採集 てんとうむし(7);40.
- 2) 相坂耕作(1984) 注目すべきCatocala 2種 てんとうむし(9);61.
- 3) 芦田久・佐藤学(1982) カバフキシタバを西宮市角石町で採集 きべりはむし10(2);24.
- 4) 井上 寛(1982) 日本産蛾類大図鑑・講談社
- 5) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集記録 てんとうむし(10);37-45.
- 6) 奥谷禎一(1974) 東中国山地自然環境調査報告、173-191. 中国山脈東端の昆虫相
- 7) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし(10);1-10.
- 8) 倉敷昆虫館(1978) 岡山県の昆虫-岡山県昆虫生態調査報告書-
- 9) 坂口 操(1971) 洲本市付近の蛾の記録 PARNASSIUS(8);6-10.
- 10) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報 きべりはむし23(1);6-16.
- 11) 高島 昭(1995) 波賀町坂の谷林道で得られた数種の蛾 きべりはむし23(1);21.
- 12) 高島 昭(1995) クロウスタビガの採集記録 きべりはむし23(1);31.
- 13) 高島 昭(1995) 赤穂市でクロシオキシタバ採集 きべりはむし23(2);23.
- 14) 高島 昭(1996) 相生市三濃山麓の蛾(1) きべりはむし24(1);27-39.
- 15) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報);9-14.
- 16) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚市文化財調査報告第29集 宝塚の昆虫Ⅲ 蛾類(I)
- 17) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚市文化財調査報告第29集 宝塚の昆虫Ⅴ 蛾類(Ⅱ)
- 18) 竹中 進(1985) 下阿古谷でアサマキシタバを採集 Crude(26);26.
- 19) 田中 蕃(1966) 神戸市摩耶山に産する若干の蛾類 蛾類通信(45);442-444.
- 20) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶19(71);89-104.
- 21) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1)

- IRATSUME(10);30-37.
- 22) 遠山雅夫・遊磨正秀・松本健嗣(1975) 兵庫県
の蛾(1)スズメガ科 きべりはむし 4(1/2);
38-44.
- 23) 登日邦明(1968) 伊勢の森の蛾類
PARNASSIUS(4);4-9.
- 24) 登日邦明(1973) 淡路島のCatocala
PARNASSIUS(9);1-2.
- 25) 登日邦明(1968) オオシモフリスズメ洲本市下
加茂に産す PARNASSIUS.(5/6);12.
- 26) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(I)
蛾類通信(73);215-224.
- 27) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(II)
蛾類通信(76);261-266.
- 28) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(III)
蛾類通信(78);301-306.
- 29) 登日邦明(1974) モンシロモドキを上灘畑で
採集 PARNASSIUS(13);8.
- 30) 登日邦明() ハマオモトヨトウ淡路島に産
す PARNASSIUS();18.
- 31) 登日邦明(1981) 洲本市で採集された注目すべ
き蛾3種について PARNASSIUS(24);18-19.
- 32) 登日邦明(1984) 淡路島のマイコトラガについ
て PARNASSIUS(30);8-10.
- 33) 登日邦明(1987) モンシロモドキの採集記録
PARNASSIUS(32);11.
- 34) 登日邦明(1988) 常隆寺山でマイコトラガ発見
PARNASSIUS(34);4.
- 35) 登日邦明(1989) 北淡町浅野でマイコトラガを
採集 PARNASSIUS(35);8.
- 36) 夏秋優・佐々木昇(1982) 能勢地方の蛾(I)上
阿古谷・夏の蛾 Crude(23);1-37.
- 37) 夏秋優・佐々木昇(1983) 能勢地方の蛾(II)上
阿古谷・夏の蛾(続報) Crude(24);1-12.
- 38) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢地方の蛾(III)
妙見山・夏の蛾(1) Crude(25);15-22.
- 39) 夏秋 優(1988) 兵庫県尼崎市にてクロシオキ
シタバを採集 Crude(32);31.
- 40) 新家 勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その1) きべりはむし10(2);10-16.
- 41) 新家 勝(1985) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その4) きべりはむし13(2);36-40.
- 42) 新家 勝(1989) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その9) きべりはむし17(2);31-35.
- 43) 西 隆広(1988) カバフキシタバの芦屋市にお
ける記録 きべりはむし16(1);16.
- 44) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森 林
内基礎調査報告書
- 45) 兵庫県保健環境部環境局環境管理課(1995)
兵庫の貴重な自然 -兵庫県版レッドデータ
ブッカー;1-129.
- 46) 藤平 明(1973) 南淡の蛾 PARNASSIUS(10);
7-10.
- 47) 藤平 明(1975) 南淡の蛾(III)
PARNASSIUS(15);7-12.
- 48) 藤平 明(1987) 南淡の蛾
- 49) 堀田 久(1976) 先山の昆虫相(I)
PARNASSIUS(16);11-19.
- 50) 堀田 久(1976) 9月にクロシオキシタバを
採集 PARNASSIUS(16);10.
- 51) 堀田 久(1987) オオシモフリスズメの採集例
PARNASSIUS(32),2.
- 52) 松本健嗣(1981) 神戸市山田町の蛾数種
きべりはむし 9(2);21-22.
- 53) 松本健嗣(1981) 男鹿島のクロシオキシタバ
きべりはむし 9(2);22.
- 54) 松本健嗣(1983) 神戸・明石近海地域の主な蛾
(その1) きべりはむし11(1);3-6.
- 55) 松本健嗣(1983) 神戸市山田町の蛾(続報II)
きべりはむし11(2);57-58.
- 56) 松本健嗣(1987) 神戸市北区山田町(鈴蘭台周
辺)の蛾 きべりはむし15(1);21-22.
- 57) 山口福男(1996) 神戸市内のマイコトラガ
きべりはむし24(1);39.
- 58) 山本義丸(1953) 氷上郡スズメガ科目録
NATURA(10);10-13.

59)山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報)
兵庫生物 3(3):121-123.

60)山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録,
12-50.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

シラキトピナナフシの採集例

近藤伸一

関宮町の妙見山南西山麓にあるブナ林(標高約700m)で同行の今西将行氏が採集したシラキトピナナフシ(*Micadina* sp.)を保管している。県下における本種の採集記録は少ないと思われるので報告する。

養父郡関宮町妙見山南西山麓

1♀ 26.XI.1995 今西将行採集

採集場所付近は約5cmの積雪があり、樹木はほとんどが落葉していた。貴重な標本を恵与された今西氏に厚くお礼申し上げる。

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

ヒラズゲンセイの兵庫県下の産地

(兵庫県甲虫相資料・324)

高橋寿郎

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* (Olivier)

は南方系の種であり、幼虫はクマバチの巣に寄生することが知られており、日本では琉球—沖縄本島、石垣島、四国(高知県)、本州(紀伊半島)に産するとされていた。兵庫県下からは洲本市金屋で1♀(I.VII.1977)が得られたことを登日邦明氏が発表されたのが一番初めての記録になると思われる。次いで森 和夫氏は神戸市北区山田町藍那から1♂を採集の報告をされた(1986)。次いで、杉浦

直人・三宅愼也氏は神戸市立森林植物園においてキムネクマバチの巣内でヒラズゲンセイを発見(9.VII.1990)、成虫の生態を観察、飼育をも試みられその生活史の推定をされた(1991)。さらに森 和夫氏は三木市緑ヶ丘町東にて採集されたのを報告しておられる(1993)。正式の報告発表はないが、筆者の所へ明石市明石城公園内で採集できているといった西 隆広氏からの手紙連絡を頂いている(1992)。さらに、前川和昭氏が洲本市安乎町浜の自宅の庭のクマバチの巣穴の下の地上で採集記録を発表になっている(1993)。

淡路島では洲本市内からのみの記録であるが、神戸市立森林植物園と藍那はわりと近い距離であり、ともに自然状態が良いところである。三木市内の緑ヶ丘も藍那からすればかなり近い地域であるが、どちらかといえば開発地域になるかと思う。藍那の北西の地であり、本州での現時点での北限になるかと思われる。これら3地点を結ぶ地域はまだまだ自然が残っている所もあり、環境としては悪くはない。したがって、このヒラズゲンセイの産は大いに期待出来るのではと思う。

以上のようにヒラズゲンセイは兵庫県では洲本市、明石市、神戸市、三木市に産することが確実な種のようなのである。

<参考文献>

前川和昭(1993) ヒラズゲンセイ他数種の採集報告. *Parnassius*(39): 11.

森 和夫(1986) ヒラズゲンセイを神戸市で採集. *きべりはむし*14(2): 36.

森 和夫(1993) ヒラズゲンセイ三木市に産す. *きべりはむし*21(2): 48-49.

杉浦直人・三宅愼也(1991) ヒラズゲンセイの生態に関する知見 *中国昆虫*(5): 1-5.

登日邦明(1980) トサヒラタゲンセイ淡路島に産す. *Parnassius*(23): 9.

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)